



1 面 県国際交流・協力ネットワーク会議に出席して 2 面 神が宿る国ネパールのあれこれ(その1) / 異文化交流トークサロン 3 面 桜が丘小学校国際交流授業に参加して / 井野団地「ふれあい夏祭り」に参加して 4 面 日本語教室 NOW / LADY TIFA 発足報告 / TIFA ホームページアドレスの変更 / 新会員紹介

## 平成 25 年度

# 県国際交流・協力ネットワーク会議に出席して

7月4日(木)水戸・県民文化センターにて開催された会議に出席してきました。会議は茨城県国際交流協会の主催で10時から15時までのスケジュールで全体会、分科会の二部構成で実施されました。第一部の全体会では長岡市国際交流センター長「羽賀友信氏」の多文化共生、国際交流をテーマとする講演でした。内容は日本で対欧米で始まり対アジア、対アフリカに移ってきている『国際交流』の概念は現在では『多文化共生』に変わってきている。ただ単に外国人と異文化交流するだけではなく、例えば日本人が外国で暮らすにはその文化を理解する必要があるのと同様、外国人も日本に来たら日本の文化に慣れ、理解する必要があると言うものです。

羽賀氏は東日本大震災の時、救援活動などで被災者とコミュニケーションを図る時に言葉(日本語)の重要性を痛感し『多言語支援センター』の立ち上げに努力されたとの事。さらに現在も日本全国に多言語支援センターを広める活動をしている事に大きな感銘を受けました。



第二部として3つの分科会で事例発表、質疑がなされました。テーマは以下の通りです。

第1分科会：地域における多文化共生推進について。

第2分科会：海外との交流、国際協力活動について。

第3分科会：日本語ボランティア教室の運営、情報交換

会議を通じて茨城県は活発に国際交流事業を推進していると感じましたが、市、町レベルでの活動資金を含めた地域差が少なくないようなので、今後は隣接の地域や方向性を同じくする団体が協力して事業を進める方がより効率的なのではないかと感じました。

(交流部会 土井 照夫)



## 神が宿る国ネパールのあれこれ（その1）



私は、取手市下高井の小田島満哉と申します。2011年3月から2年間JICAの派遣でネパールの協同組合を指導してきました。このたび取手市国際交流協会からネパールの状況についての投稿依頼がありましたので報告させていただきます。

ネパールは東、西、南の三方をインドに、北方を中国チベットに接する細長い内陸国です。面積は14万平方キロで北海道の約1.8倍で北部の世界最高峰のエベレスト（8,848m）のあるヒマラヤ山脈および中央部の丘陵地帯と南部のインド国境までの亜熱帯タライ平原まで幅広い気候帯を持っています。人口は2,662万人でこの10年間に15%増加し平均寿命は61歳です。ネパール国内にはユネスコの世界遺産がカトマンズ渓谷、チトワン国立公園、サガルマータ国立公園、ルンビニの四つがあります。

私と家内の住んでいたカトマンズはネパールの首都で人口は251万人です。一般的にカトマンズと呼ばれる地域はカトマンズ盆地を指しカトマンズ市（174万）、ラリトプール市（45万）、バクタプール市（32万）の3市全体を総称していいます。カトマンズは標高1300mの盆地に位置するため雨季および乾季とも昼夜の気温差が大です。雨季は4月から9月までで毎日のように雨が降りますが日本の梅雨のように一日中シトシトと降るのではなく夕方から夜にかけて大雨が滝のように降ります。また乾季の10月から3月まではほとんど雨が降りません。そのため水力発電に依存しているネパールでは一日最大17時間の停電になります。家内は炊飯器などの電気製品が使えず四苦八苦していました。停電の夜はローソクと懐中電灯で過ごします。

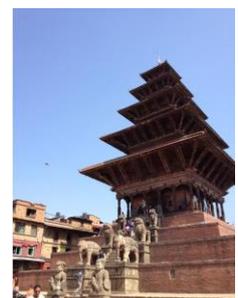
よく知り合いのネパール人の家に家内と招待されましたが、どの家でも来客へのもてなし料理はダルバートというネパールの代表的な家庭料理をご馳走になりました。この料理はダル（豆のスープ）、バート（白米のごはん）、タルカリ（野菜の煮物）、アチャール（漬物）などのセットでこれらを手で混ぜて食べます。味つけには塩、トウガラシ、にんにく、しょうが、それに各種スパイスが使われカレー味が基本です。家内がネパール人に教えてもらって我が家でもダルバートを食べていました。ネパールの食材は、野菜が中心でじゃがいも（32円/kg）、玉ねぎ（26円/kg）、トマト（50円/kg）、キャベツ（36円/kg）と安く魚は川魚のみでかなり生臭いので食べられませんでした。またヒンズー教徒が大部分なので牛肉は食べませんが鶏肉はよく食べています。その他ネパール人はサトイモの茎、蕎麦の葉、ハヤトウリなども食べています。去年はヒラタケ、マッシュルーム、シイタケなどのキノコが大豊作でしたが一方で毒キノコによる死亡者が多数出ていました。果物はマンゴ（80円/kg）、パパイヤ（70円/kg）、バナナ（60円/12本）、パイナップル（90円/1個）などが豊富に出回っており、日本ではほとんど食べたことのなかった完熟したマンゴが安く食べられたので大好物になりました。

（交流部会 小田島満哉）

### 異文化交流トークサロン

## 「神が宿る国ネパールのあれこれ」

- 日時 : 2013年9月28日（土）午後1時30分～3時  
 場所 : 取手市福祉交流センター 会議室 AB（取手市役所  
 向い側）  
 講師 : 小田島 満哉氏（当協会会員）  
 主催 : 取手市国際交流協会（交流部会主管）



## 桜が丘小学校国際交流授業に参加して

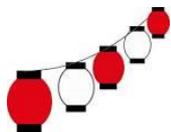
昨年に引き続き桜が丘小学校から、6年生との交流授業の依頼があり、今年6月14日に、ミャンマー、フィリピン、インド、ベトナム、マレーシア、中国、台湾、ロシア、ペルー出身の11名の方々に参加していただき、賑やかな交流授業を持つことが出来ました。11名の方々は、少しでもお国のことを知ってもらおうと、夫々しっかり準備して臨まれ、民族衣装に身を包んだり、重たい楽器を持参したりして協力していただき、暑い中、頭が下がる思いでした。



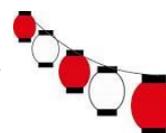
生徒の皆さんも、担当の国について下調べをして様々な質問を用意していたようですが、実際に外国出身者を目の前にして、言葉が出てこない場面もありました。それでも、どのグループも和気あいあいと大いに盛り上がり、1時間があっという間に終わってしまい名残が尽きませんでした。最後には未知の文字で自分の名前を書いたりして、大喜びで幕を閉じました。

後日、生徒の皆さんから一人ずつにお礼状が届けられ、楽しかった思い出話にもう一度花が咲きました。

(日本語教室部会 福元満子)



## 井野団地「ふれあい夏祭り」に参加して



お祭り初日の7月27日(土)、会場には前日に設置したテントや提灯が青空にくっきりと映え、今日の日を待ちわびていた子どもたちが浴衣を着てぞろぞろと集まって来ている。突然、冷たい風が吹き、豪雨！横殴りの風雨で準備した看板、書類、飲み物などびしょ濡れ。足元は洪水。立っている場所も無い。開店までに水はけ対策をしなければお客さんはTIFAのブースに近寄れない。



2度の雷雨の合間をぬって盆踊りが太鼓の音と共に始まった。辺りが夕闇に染まる頃、音につられて人々が集まってきた。いよいよお祭りのクライマックスだ。“Do the same”と言いながら前の人々の振りを見ながら見様見真似で踊る。同じに出来なくてもいい、リズムに乗ればどんな踊りでも構わない。民族衣装に身を纏った外国人の踊りは、一際目立っていたことだろう。

TIFAのブースの中では外国出身者とビールを飲みながらの国際交流が始まっている。初めてお目にかかる人、懐かしい人、多くの人々が集まった。初めての井野団地の夏祭りの参加は大成功！楽しいひとときだったが、やはり途中中止となった。雨の中、満足感でいっぱいの気持ちで帰路に着いた。

(交流部会 佐々木房子)

「日本語教室」ボランティアのための「スキルアップ講座」が、全4回の日程（6月～7月）で、取手市福祉交流センターで開催されました。講師を松戸国際学院で教えておられる内田陽子氏にお願いし、中央教室・戸頭教室等で活動するボランティアを中心に18名が参加しました。今回のテーマは「日本語学習支援を通じた外国出身者とのコミュニケーションを考える」でした。近年の言語学や外国語教授法、国際センターなどでの実践的な成果を踏まえた講義と、ロールプレイや模擬授業を織り込んだ体験的・実践的な研修となりました。

外国語を学んで発話に至るまでのプロセスを考えますと、「自分の内面からの欲求や必要に迫られて言いたいことがある（これを概念化という）段階」から「必要な言葉を組み立てる（これを形成化という）段階」、そして「言葉としていう（音声化という）段階」に至って、話すということが実現します。そこでは「知識があること」と「発話できること」との間のギャップは大であります。そこで、教室では導入で気づき、練習では形と意味を結び付けて覚えるようにしています。

さらに実際面を想定して、練習すると学習者は自ら内容を組み立てることができるようになります。外国出身者は、日本語がもっと理解でき、よりスムーズに使えたら、悩みや不安が解消し、問題解決に至ると思っています。ボランティアとして一層の援助ができるよう決意を新たにしました。

（日本語教室部会 宮本敏弥）



## LADY TIFA 発足報告

7月7日 Lady TIFA の発足会を行いました。猛暑にもかかわらず30名の参加がありました。気に入ったバザー品を選んだり、短冊に願い事を書いて七夕飾りをつくったり、初対面の方々もおしゃべりに花が咲きました。国境を越えてのコミュニケーション、これからも続けていきたいと思えます。（交流部会 大日向 美由紀）



## TIFA ホームページの変更

「かわら版 75号」でお知らせしたHPのアドレスを再度変更しました。これは、HPの拡張性、利便性、更新性に優れたHPプロバイダーが見つかったからです。会員の皆様、是非アクセスしてご覧ください。

新アドレス <http://www.tifa-japan.com>

### 新会員紹介（敬称略）

蘇武 義裕 蘇武ジェネリン・サレス  
富田パチャワラン 李 凌  
グエン・スアン・カン  
ビーチ・アレックス

連絡先：取手市国際交流協会事務局 取手市役所秘書課内

TEL:0297-74-2141 内線 1112

FAX:0297-73-5995

E-Mail:[hisho@city.toride.ibaraki.jp](mailto:hisho@city.toride.ibaraki.jp) ホームページ:<http://www.tifa-japan.com>